

風倒被害森林における令和2年7月豪雨による拡大崩壊の検証調査 資料

国土防災技術株式会社

8月25日(火)

トヨタレンタカー京都駅新幹線口店 集合(JR京都駅八条口より南へ200m) 〒601-8002 京都市南区東九条上殿田町31-1 TEL 075-682-0800 (移動)	
12:00 発	1:15
13:15 着	0:05
13:20	2:00
15:20 発	0:05
15:25 着	0:05
15:30	0:30
16:00 発	1:15
17:15 着	

宿泊先:スーパールホテル京都・烏丸五条

〒600-8177
京都府京都市下京区烏丸通り五条下る大坂町396番3
TEL:075-343-9000

※ 移動中に府道6号線沿いの崩壊地を車窓から目視調査

8月26日(水)

8:30 発	1:00
9:30 着	0:10
9:40	3:30
13:10	0:40
13:50 発	0:10
14:00 着	0:10
14:10	1:50
16:00 発	1:00
17:00 着	

〒600-8177
京都府京都市下京区烏丸通り五条下る大坂町396番3
TEL:075-343-9000

※ 状況に応じて「①②(京都市左京区鞍馬本町)」も調査対象

8月27日(木)

8:20 発	0:20
8:40	0:20
9:00	3:00
12:00	

調査対象箇所一覧表

現地調査対象
 現地調査対象外
 現地調査候補(対象地近傍、または車窓からの目視調査対象)

No.	字名	被災内容	被災時期	崩壊地諸元等		特徴	地質	基礎情報		ページ番号
				斜面長	最大幅			植生	斜面勾配	
①	中畑	作業道路崩壊	6.18	A崩壊: 40 m B崩壊: 26 m	A崩壊: 13 m B崩壊: 14 m	急勾配・雨水の集中・浅い表層土	メランジュ基質 (付加コンプレックス)	アベマキ・コナラ林	A崩壊: 41° B崩壊: 39°	6
②	中畑	作業道路崩壊	6.18	31 m	22 m	急勾配・雨水の集中・地下水の供給・浅い表層土	メランジュ基質 (付加コンプレックス)	スギ・ヒノキ等植林	42°	7
④	中畑	河川閉塞(土木)撤去	7.08	45 m	65 m	急勾配・浅い表層土	メランジュ基質 (付加コンプレックス)	スギ・ヒノキ等植林・末端河川沿いはアベマキ・コナラ林	41°	8
⑤	出灰	崩壊地拡大	7.04	—	—	急勾配・浅い表層土	—	—	—	—
⑥	出灰	崩壊(市)撤去	7.08	—	—	—	—	—	—	—
⑩	出灰	山腹崩壊	7.08	A崩壊: 96 m B崩壊: 25 m	A崩壊: 22 m B崩壊: 10 m	急傾斜・浅い表層土・崩壊地頭部に作業道あり。	メランジュ基質 (付加コンプレックス)	A崩壊: 上部に一部アベマキ・コナラ林。 崩壊斜面の大部分はスギ・ヒノキ等植林 B崩壊: 斜面・上部アベマキ・コナラ林。	A崩壊: 34° B崩壊: 27°	9
⑩	出灰	作業道クラック	6.13	17 m	35 m	対象とする作業道の全線にわたってブルーシート設置済み。状況確認が困難。	メランジュ基質 (付加コンプレックス)	アベマキ・コナラ林	38°	10
⑯	出灰	山腹崩壊・河川閉塞(土木)撤去	7.08	A崩壊: 96 m B崩壊: 35 m	A崩壊: 80 m B崩壊: 20 m	急勾配・浅い表層土	メランジュ基質 (付加コンプレックス)	A崩壊: 上部はアベマキ・コナラ林。 下部はスギ・ヒノキ等植林 B崩壊: スギ・ヒノキ等植林	A崩壊: 38° B崩壊: 41°	11
⑰	出灰	山腹崩壊・河川閉塞(土木)撤去	7.08	A崩壊: 59 m B崩壊: 45 m	A崩壊: 15 m B崩壊: 32 m	急勾配・浅い表層土	メランジュ基質 (付加コンプレックス)	A崩壊: 上部はアベマキ・コナラ林。 中へ下部はスギ・ヒノキ等植林 B崩壊: スギ・ヒノキ等植林	A崩壊: 39° B崩壊: 43°	12
⑱	川久保	山腹崩壊	7.08	33 m	24 m	急勾配・浅い表層土	メランジュ基質 (付加コンプレックス)	スギ・ヒノキ等植林、末端部に一部アベマキ・コナラ林を含む。	41°	13
⑲	原	山腹崩壊	7.08	45 m	64 m	急勾配・浅い表層土	メランジュ基質 (付加コンプレックス)	スギ・ヒノキ等植林	28°	14

大阪府提供資料を加筆修正

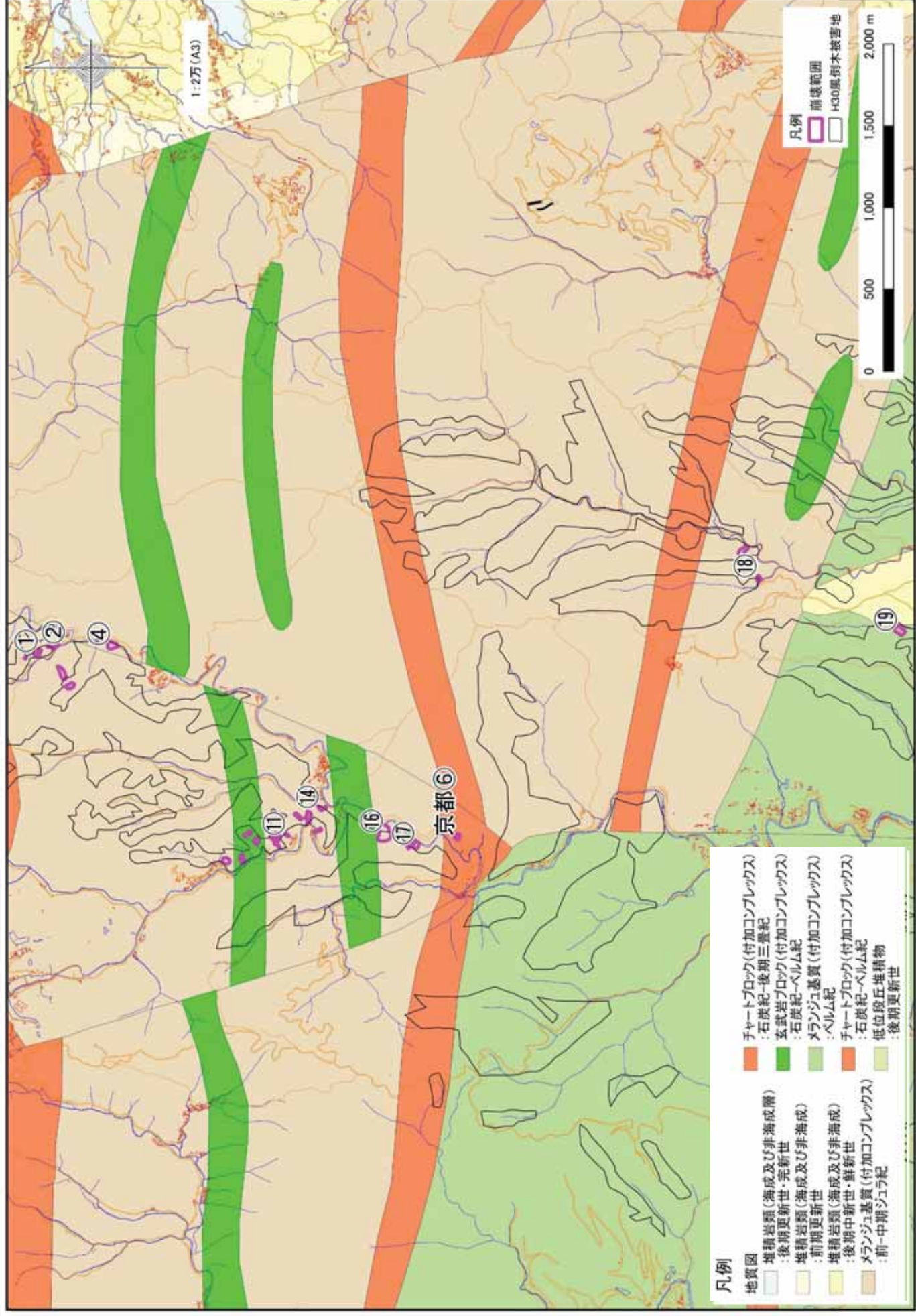
No.	字名	被災内容	被災時期	崩壊地諸元等		特徴	地質	植生	斜面勾配	斜面形状	ページ番号
				斜面長	最大幅						
①	鞍馬本町(その2)	山腹崩壊	R2.7	130 m	33 m	湧水	玄武岩ブロック (付加コンプレックス)	崩壊地・上部はアカマツ林、斜面中へ下部はスギ・ヒノキ等植林	36°	凹形	18
②	鞍馬本町(その1)	山腹崩壊	R2.7+ 過年度*	R2崩壊: 30 m R1崩壊: 20 m	R2崩壊: 8 m R1崩壊: 20 m	急勾配・浅い表層土	玄武岩ブロック (付加コンプレックス)	アベマキ・コナラ林、一部スギ・ヒノキ等植林を含む。	R2崩壊: 42° R1崩壊: 43°	R2崩壊: 凹形 R1崩壊: 平衡	19
③	鞍馬二ノ瀬町	山腹崩壊	R2.7	103 m	52 m	【崩壊地】崩壊地は風倒被害地ではない。急勾配・崩壊地・上部斜面に凹地形や風倒木(根張り)・運送線・浅い表層土 【隣接斜面】風倒被害地で、比較的に厚い表層土・根張り少なく、幹折れが多い。頭部に凹地なし。	メランジュ基質 (付加コンプレックス)	崩壊地・上部はアカマツ林、下部はアベマキ・コナラ林	42°	平衡 斜面内に部分的な凹形あり	20
④	鞍馬本町837(土石流)	山腹崩壊	R2.7	99 m	55 m	急勾配・雨水の集中・浅い表層土	メランジュ基質 (付加コンプレックス)	スギ・ヒノキ等植林	41°	平衡、 沢筋は凹形	21
⑤	梅ヶ畑川西町	山腹崩壊	R2.7	—	—	—	—	—	—	—	—
⑥	大原野出灰町	山腹崩壊	R2.7	32 m	30 m	—	チャートブロック (付加コンプレックス)	スギ・ヒノキ等植林	46°	平衡	22

京都府提供資料を加筆修正

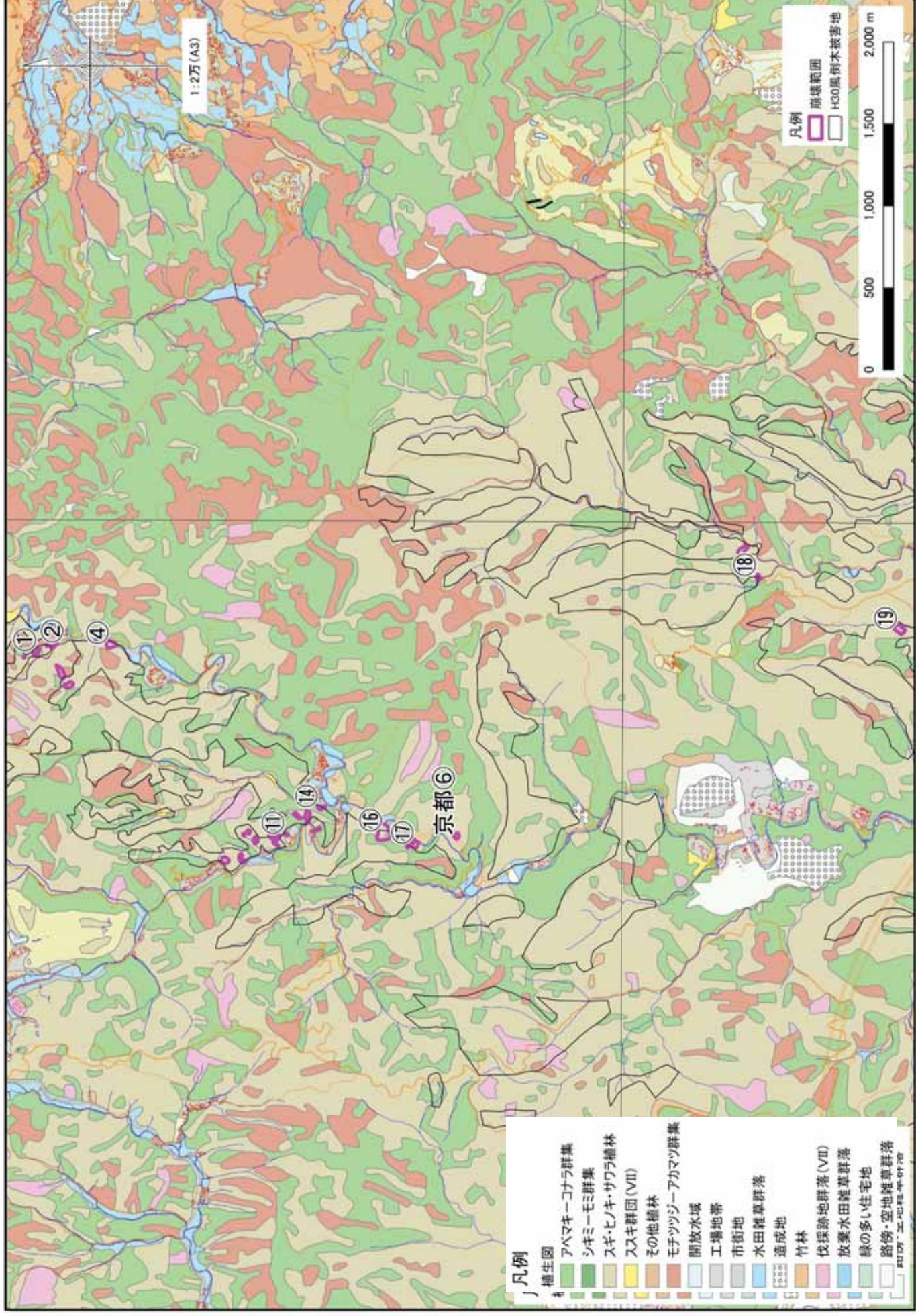
※ 施工業者聞き取り



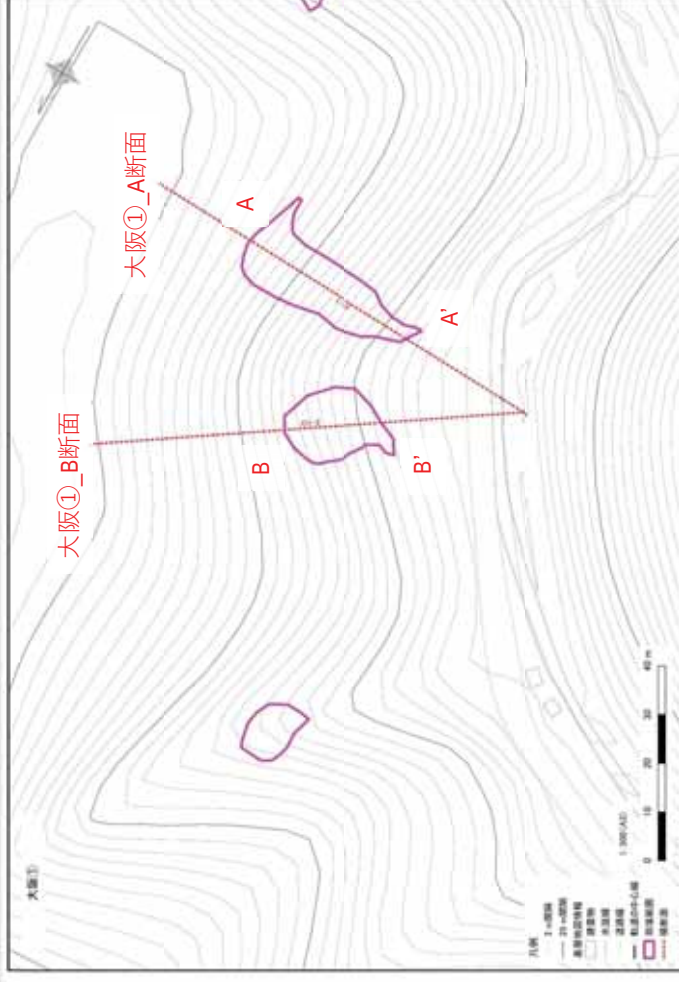
「H30風倒木被害地」範囲は、大阪府提供資料より被害範囲をトレースし崩壊範囲等と重ねて表示した。また背景地図には国土地理院の標準地図を示した。



「H30風倒木被害地」範囲は、大阪府提供資料より被害範囲をトレースし崩壊範囲等と重ねて表示した。また地質図はシームレス地質図(1/20万)を示した。



「H30風倒木被害地」範囲は、大阪府提供資料より被害範囲をトレースし崩壊範囲等と重ねて表示した。また植生図は環境省の植生調査（1/2万5千）を示した。



基礎情報

地質：

メランジュ基質（付加コンプレックス）

植生：

アベマキ・コナラ林

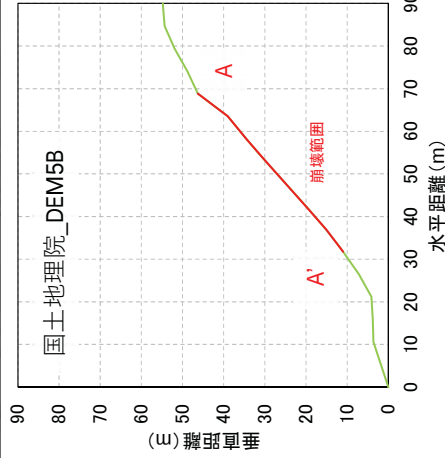
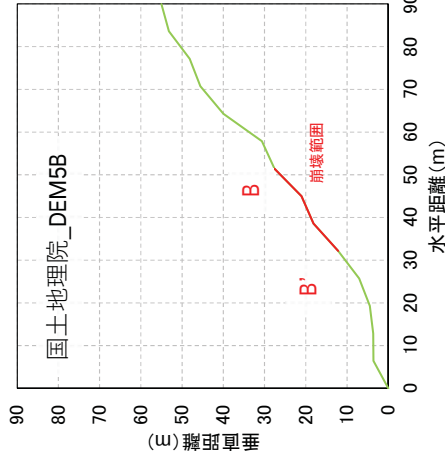
斜面勾配：A崩壊：41°，B崩壊：39°（発生区間の見通し角）

斜面形状：平衡

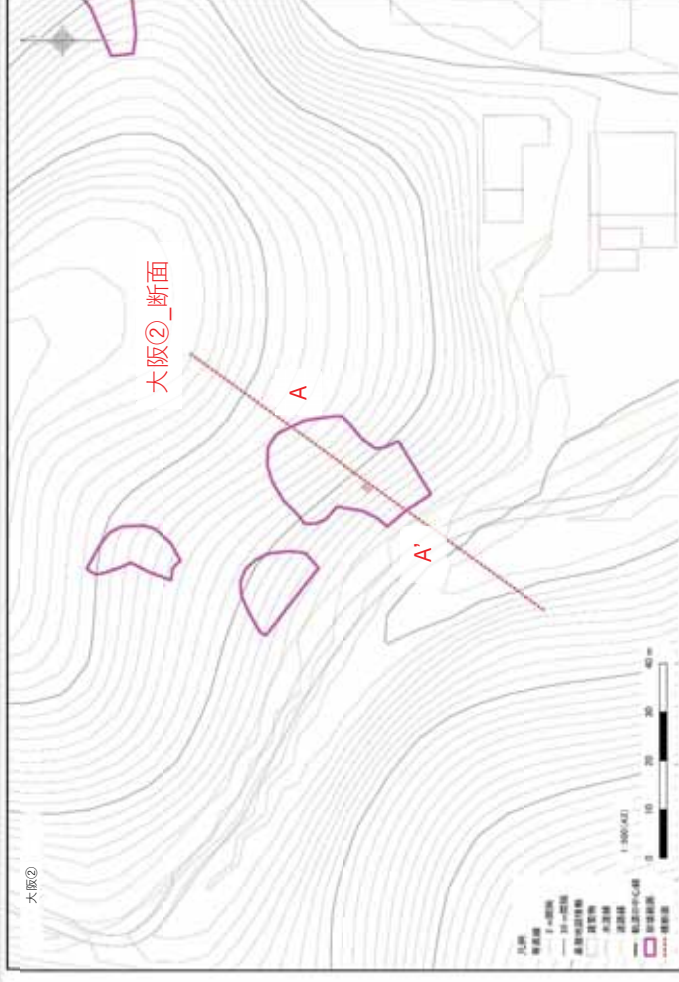
崩壊地諸元

崩壊斜面長：A崩壊：40 m，B崩壊：26 m

崩壊幅：A崩壊：5 m ～ 13 m，B崩壊：14 m



地質は20万分の1シームレス地質図、植生は環境省の植生調査（1/2万5千縮尺）より引用
等高線・断面図は国土地理院DEM5Bデータより作成，写真は国土防災技術（株）が撮影した



基礎情報

地質：
メラングジュ基質（付加コンプレックス）

植生：
スギ・ヒノキ等植林

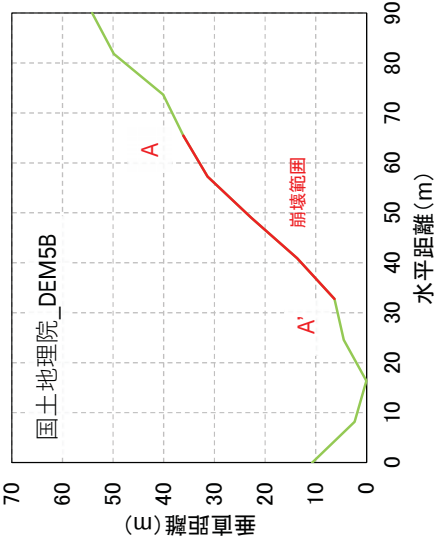
斜面勾配：42°（発生区間の見通し角）

斜面形状：平衡

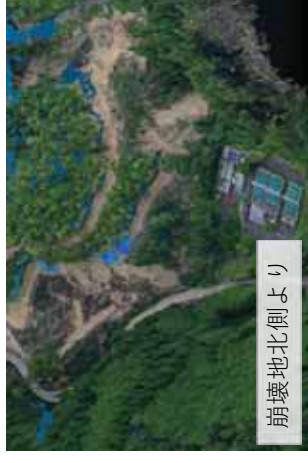
崩壊地諸元

崩壊斜面長：31 m

崩壊幅：13 m ～ 22 m

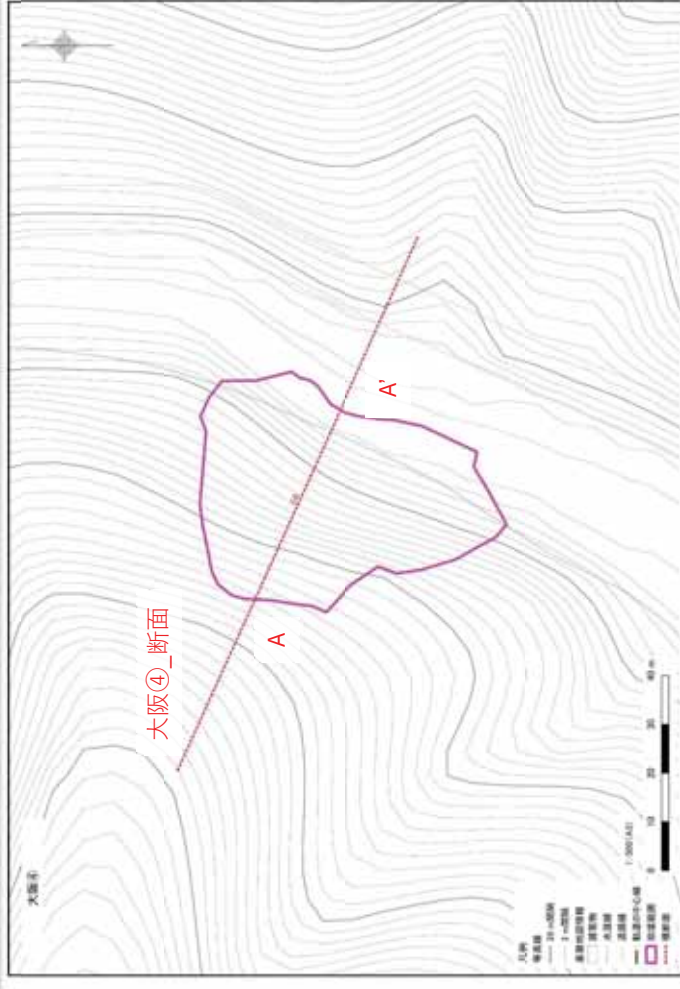


崩壊地正面より



崩壊地北側より

地質は20万分の1シームレス地質図、植生は環境省第6・7回植生調査より引用
等高線・断面図は国土地理院DEM5Bデータより作成，写真は国土防災技術（株）が撮影した



基礎情報

地質：

メラングジュ基質（付加コンプレックス）

植生：

スギ・ヒノキ等植林，末端河川沿いはアベマキ・コナラ林

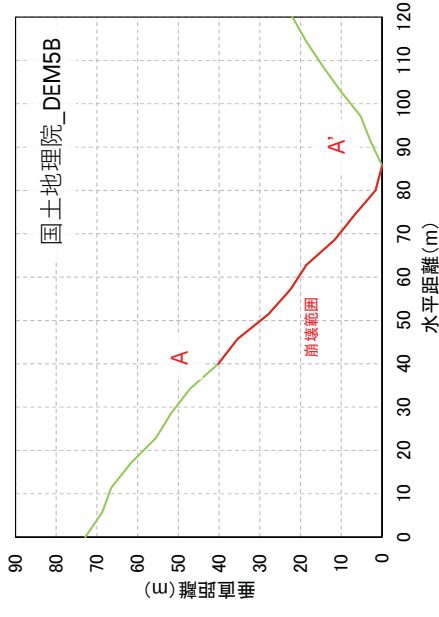
斜面勾配：41°（発生区間の見通し角）

斜面形状：凹形

崩壊地諸元

崩壊斜面長：45 m

崩壊幅：34 m ～ 65 m

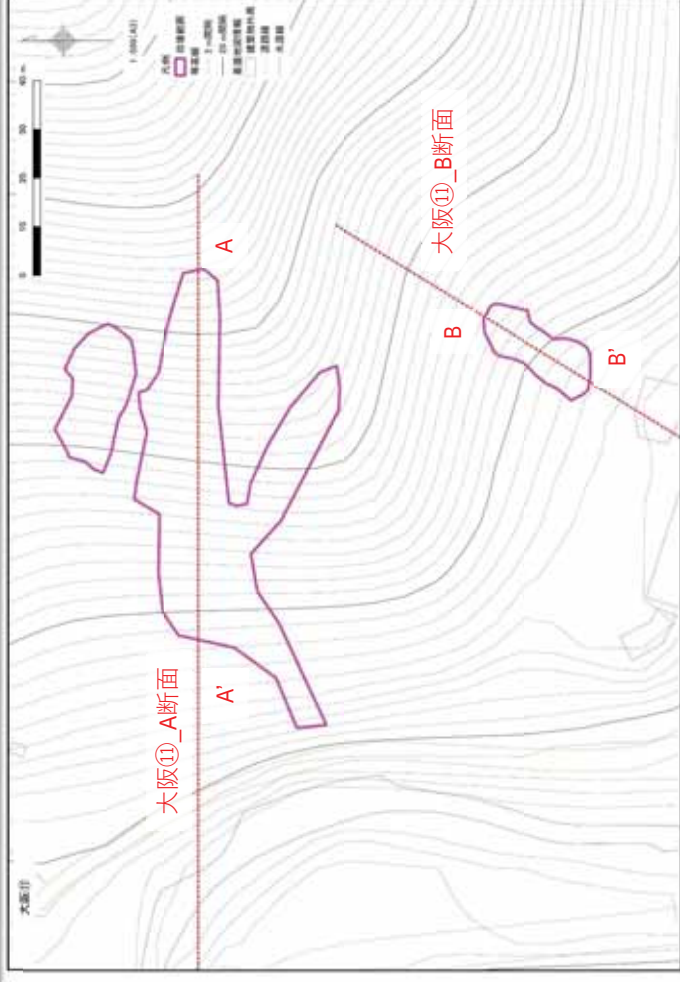


崩壊地正面より



崩壊地北側より

地質は20万分の1シームレス地質図，植生は環境省第6・7回植生調査より引用
等高線・断面図は国土地理院DEM5Bデータより作成，写真は国土防災技術（株）が撮影した



基礎情報

地質：

メラングジュ基質（付加コンプレックス）

植生：A崩壊上部の一部にアベマキ・コナラ林，大部分は下部はスギ・ヒノキ等植林，B崩壊はアベマキ・コナラ林他

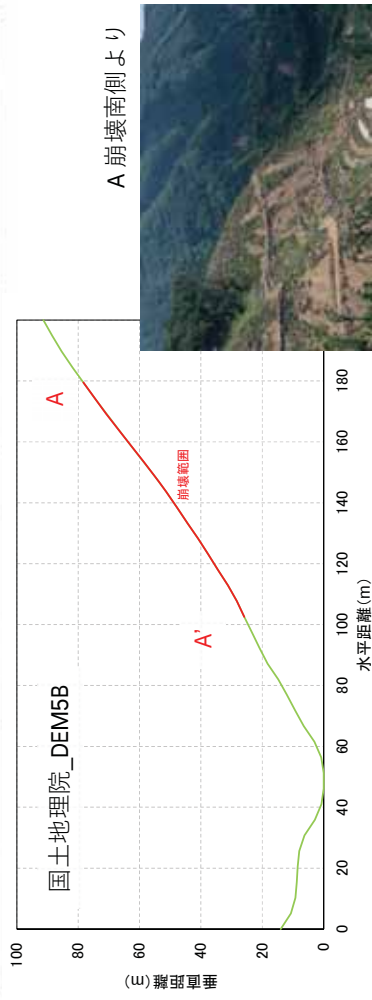
斜面勾配：A崩壊：34°，B崩壊：27°（発生区間の見通し角）

斜面形状：A崩壊：平衡，B崩壊：凹形

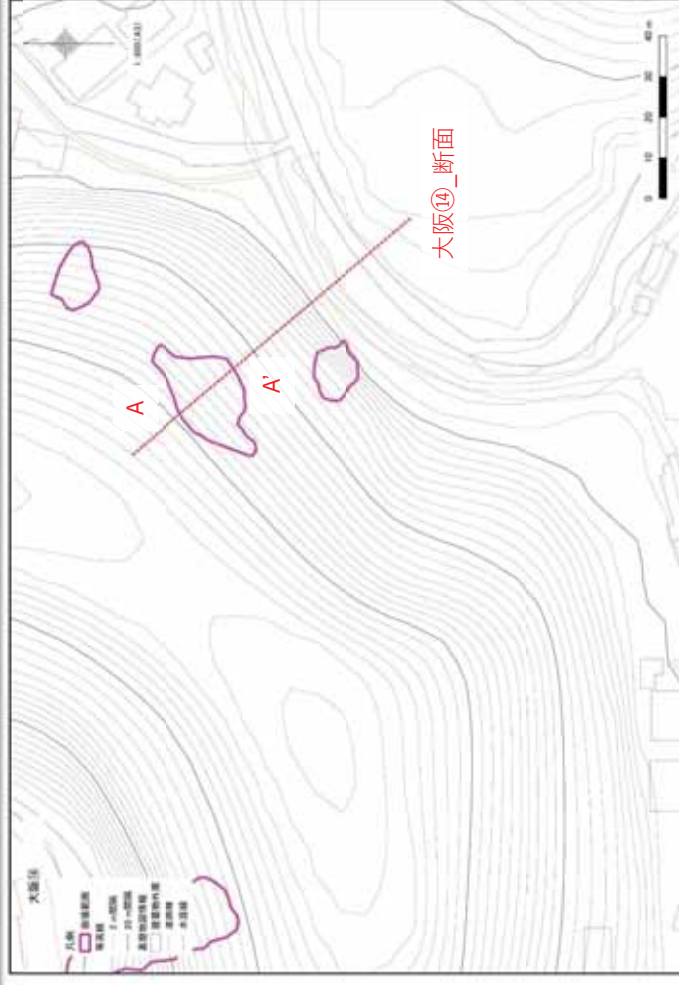
崩壊地諸元

崩壊斜面長：A崩壊：96 m，B崩壊：25 m

崩壊幅：A崩壊：10 m～22 m，B崩壊：7～10 m



地質は20万分の1シームレス地質図，植生は環境省第6・7回植生調査より引用
等高線・断面図は国土地理院DEM5Bデータより作成，写真は国土防災技術（株）が撮影した



基礎情報

地質：

メラングジュ基質（付加コンプレックス）

植生：

アベマキ・コナラ林

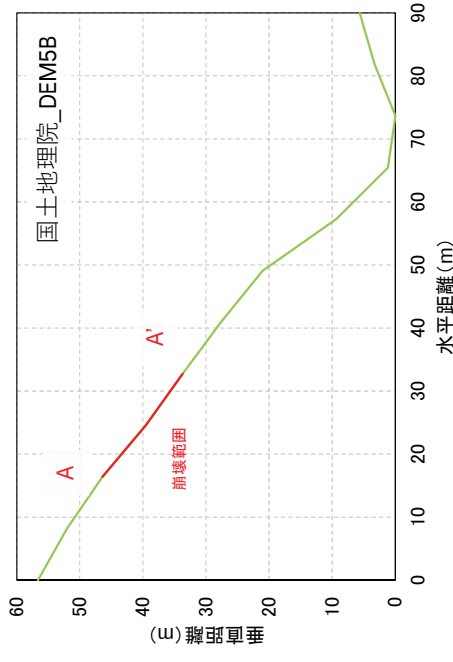
斜面勾配：38°（発生区間の見通し角）

斜面形状：平衡

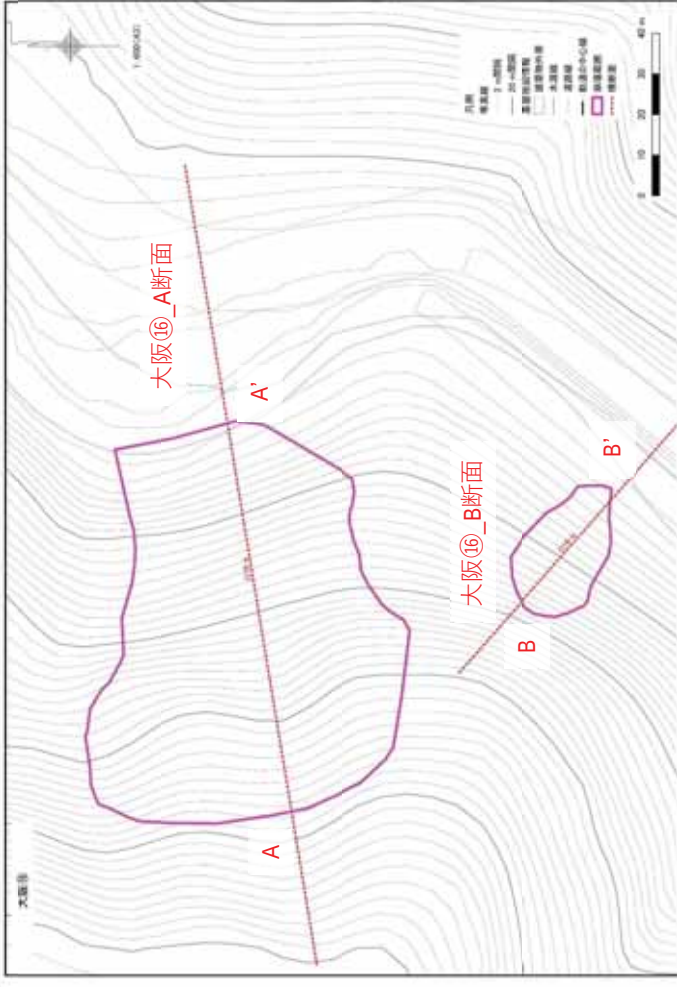
崩壊地諸元

崩壊斜面長：17 m

崩壊幅：18 m ～ 35 m



地質は20万分の1シームレス地質図，植生は環境省第6・7回植生調査より引用
等高線・断面図は国土地理院DEM5Bデータより作成，写真は国土防災技術（株）が撮影した



基礎情報

地質：

メラングジュ基質（付加コンプレックス）

植生：A崩壊上部はアベマキ・コナラ林，斜面中～下部はスギ・ヒノキ等植林，B崩壊はスギ・ヒノキ等植林

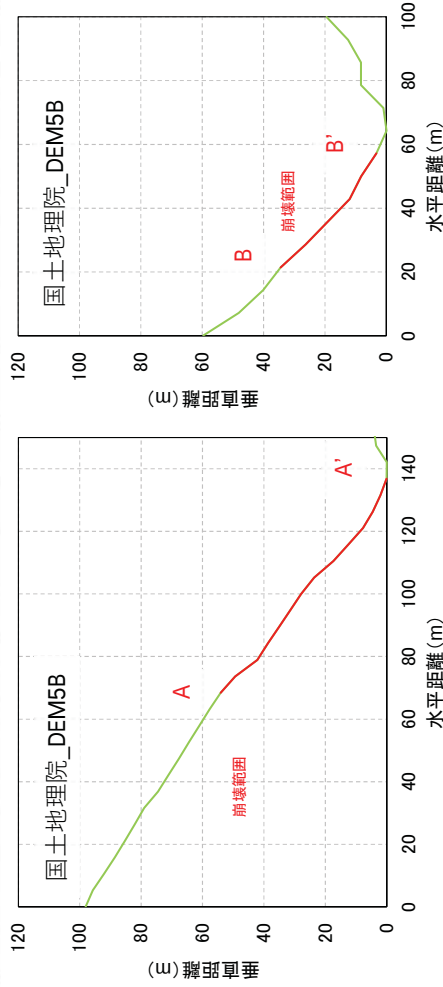
斜面勾配：A崩壊：38°，B崩壊：41°（発生区間の見通し角）

斜面形状：A崩壊：凹形，B崩壊：平衡

崩壊地諸元

崩壊斜面長：A崩壊：96 m，B崩壊：35 m

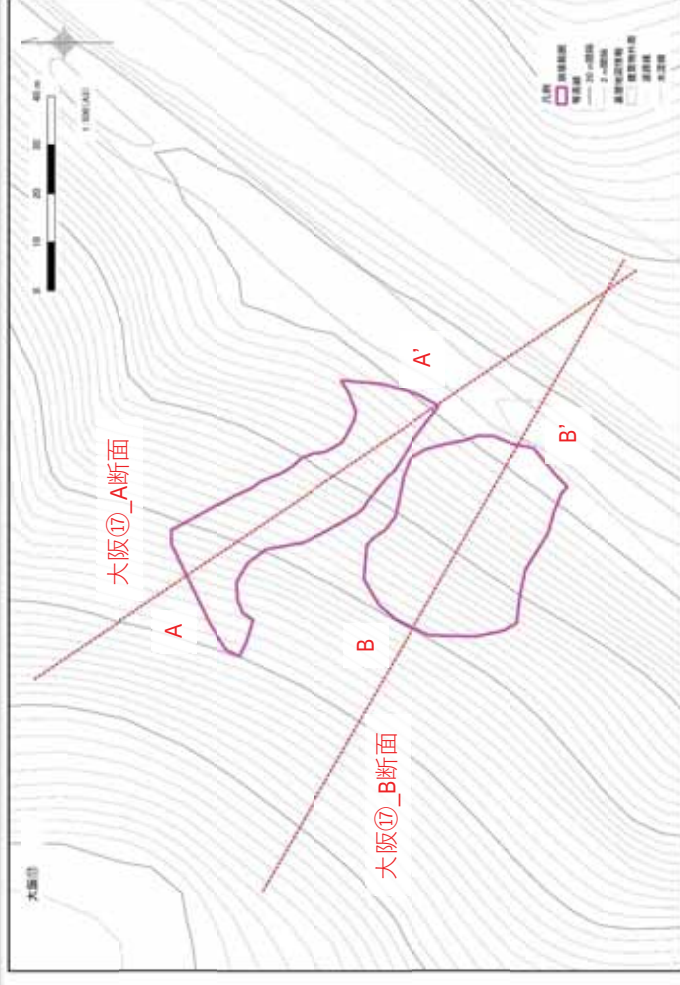
崩壊幅：A崩壊：52 m～80 m，B崩壊：20 m



地質は20万分の1シームレス地質図，植生は環境省第6・7回植生調査より引用
等高線・断面図は国土地理院DEM5Bデータより作成，写真は国土防災技術（株）が撮影した

B崩壊南側より

A崩壊正面



基礎情報

地質：

メラングジュ基質（付加コンプレックス）

植生：A崩壊上部はアベマキ・コナラ林，斜面中～下部はスギ・ヒノキ等植林，B崩壊はスギ・ヒノキ等植林

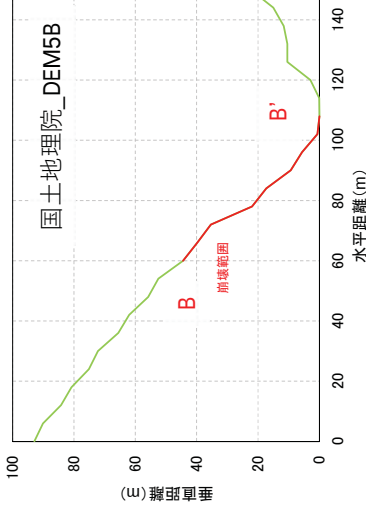
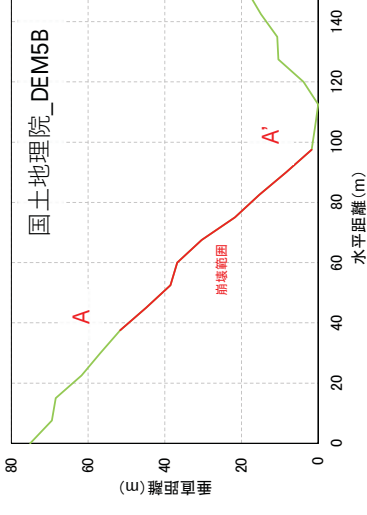
斜面勾配：A崩壊：39°，B崩壊：43°（発生区間の見通し角）

斜面形状：平衡

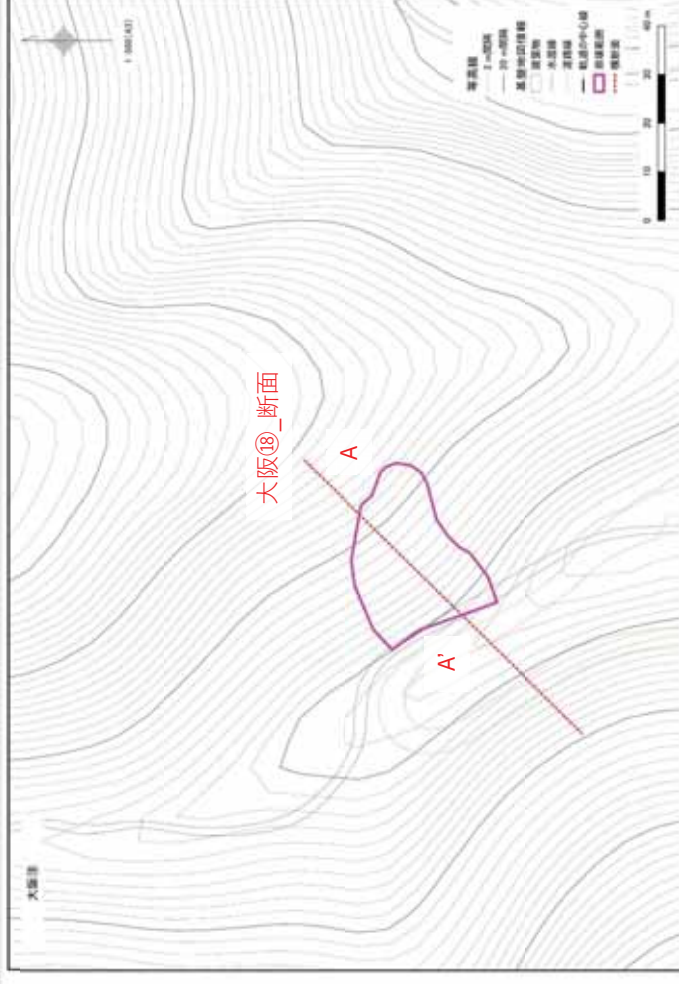
崩壊地諸元

崩壊斜面長：A崩壊：59 m，B崩壊：45 m

崩壊幅：A崩壊：15 m，B崩壊：28 m～32 m



地質は20万分の1シームレス地質図，植生は環境省第6・7回植生調査より引用
等高線・断面図は国土地理院DEM5Bデータより作成，写真は国土防災技術（株）が撮影した



基礎情報

地質：

メラングジュ基質（付加コンプレックス）

植生：スギ・ヒノキ等植林，

末端部道路沿いはアベマキーコナラ林

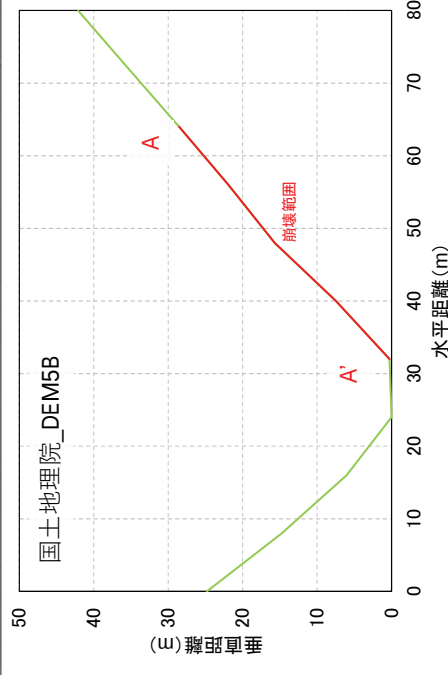
斜面勾配：41°（発生区間の見通し角）

斜面形状：凹形

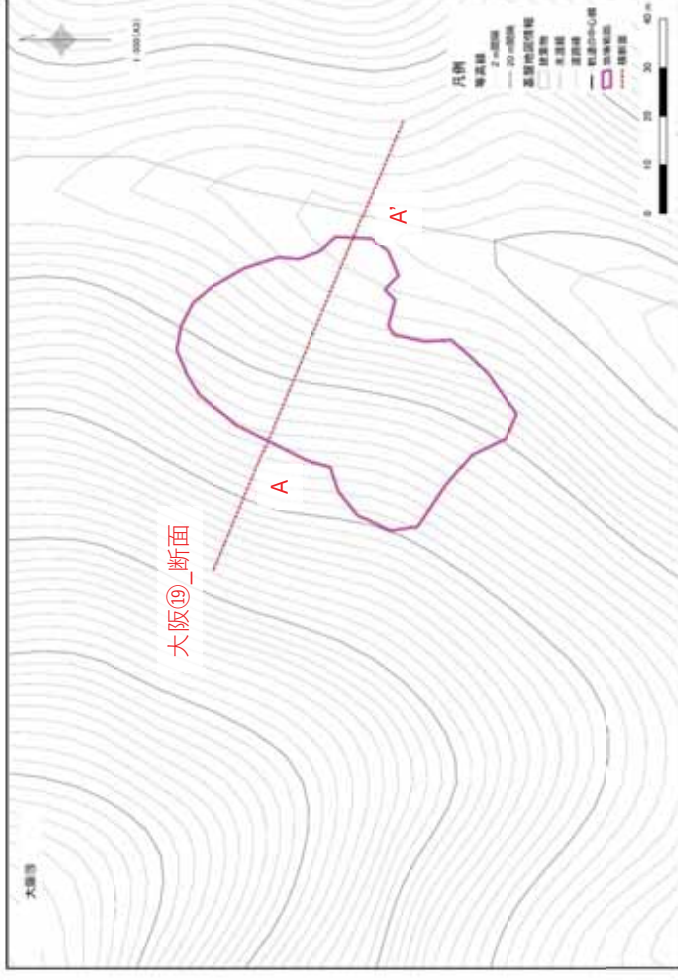
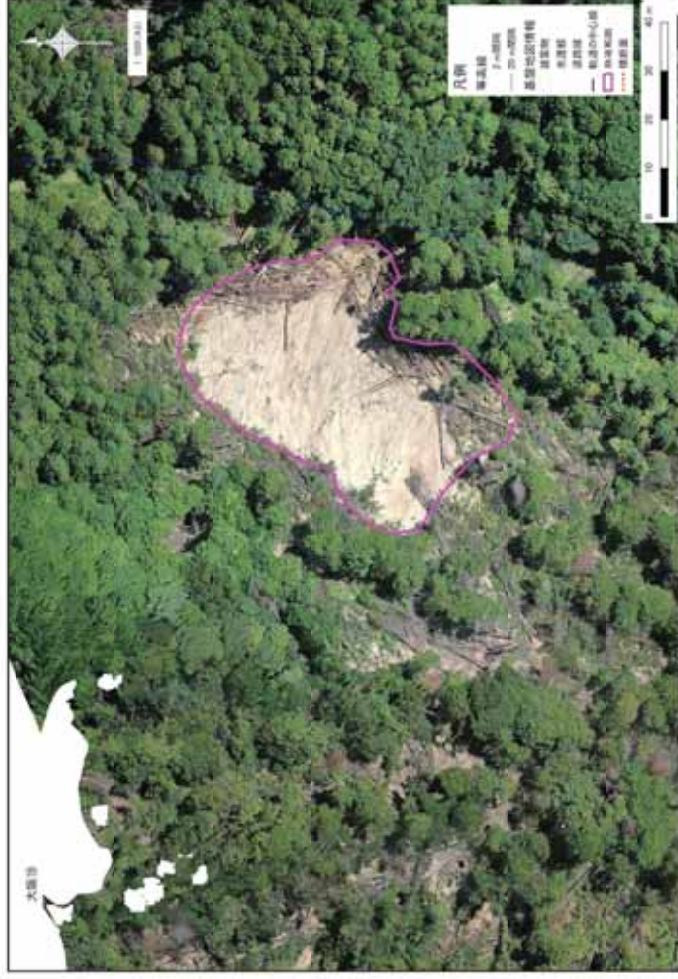
崩壊地諸元

崩壊斜面長：33 m

崩壊幅：11 m ～ 24 m



地質は20万分の1シームレス地質図，植生は環境省第6・7回植生調査より引用
等高線・断面図は国土地理院DEM5Bデータより作成，写真は国土防災技術（株）が撮影した



基礎情報

地質：

メラングジュ基質 (付加コンプレックス)

植生：

スギ・ヒノキ等植林

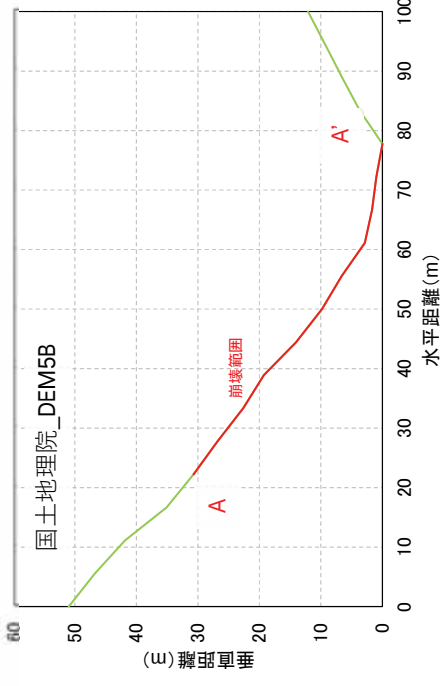
斜面勾配：28° (発生区間の見通し角)

斜面形状：凹形

崩壊地諸元

崩壊斜面長：45 m

崩壊幅：64 m



地質は20万分の1シームレス地質図、植生は環境省第6・7回植生調査より引用
等高線・断面図は国土地理院DEM5Bデータより作成、写真は国土防災技術 (株) が撮影した